

2018年度公開気象講演会

「台風の強度～台風災害の軽減に向けた航空機観測～」実施報告

教育と普及委員会

日本気象学会教育と普及委員会では、春季大会の開催期間に合わせて、最新の気象学に関する研究成果や世間的に関心の高い事柄について、一般の方々にわかりやすく解説することを目的に、公開気象講演会を開催している。公開気象講演会は大会期間中の週末に開催し、参加費も公開気象講演会の聴講に限り無料としている。

2018年度は、一般社団法人日本気象予報士会の後援を受け、「台風の強度～台風災害の軽減に向けた航空機観測～」と題して、2018年5月19日（土）（大会4日目）に開催した。

昨年（2017年）秋、名古屋大学の坪木氏を中心としたチームが台風の航空機観測をしたというニュースが流れた。このニュースを見たり聞いたりした人も多いのではないだろうか。今まさに、日本の台風研究のブレークスルーとなるような新しい観測が行われてい

る。このことは普段気象に興味のない人にも関心を呼び起こすのではないだろうか。そこで、今年度の公開気象講演会は台風の航空機観測をテーマに開催するこ

第1表 2018年度公開気象講演会の講演題目と講師名（敬称略）。

趣旨説明	坪木和久（名古屋大学）
台風の強度を測るには	中澤哲夫（気象研究所）
台風の予報はいま？	伊藤耕介（琉球大学）
台風の観測機器	清水健作（明星電気株式会社）
台風の航空機観測	山田広幸（琉球大学）
司会：尾崎里奈	防災気象 PRO 株式会社 TeamSABOTEN・気象解説者



第1図：当日の会場の様子。左上から坪木氏、尾崎氏、中澤氏、伊藤氏、清水氏、山田氏、教育と普及委員会平松委員長、質疑の様子。

とにした。

公開気象講演会のプログラムを第1表に示す。講演要旨については教育と普及委員会のホームページに掲載しているので参考にしてもらいたい (https://www.metsoc.jp/about/educational_activities/open_seminar/past_seminar/open_seminar_2018)。

講演は大盛況だった。座席数は180席、昼休みの時点から人が入りはじめ、開始時にはほとんどの席が埋まった。その後も参加者は増え、多いときには満席で立ち見がでた。人数に対しては少し窮屈な会場だったが、講師の先生方がときどき笑いを誘いながら聴講者を引き込んで講演をしてくれたため、会場は終始和やかなムードであった。また、アンケート結果によると回答者のうち約半数が非学会員だったが、講演の感想としては、説明がわかりやすかった、わくわくした、面白かった、など肯定的な意見が多かった。

趣旨説明では、坪木氏が台風の航空機観測やその必要性について説明をした。「天空の城ラピュタ」の話を取り上げたときには、一気に会場が和み、そのあと

の講演へのいい雰囲気を作られた。1人目の中澤氏(気象研究所)は、台風の強度に主眼をおいて話された。2人目の伊藤氏(琉球大学)は台風の予報について話された。3人目の清水氏(明星電気)は、台風の航空機観測のために開発した観測機器について話された。4人目の山田氏(琉球大学)は、聴講者お待ちかねの実際の航空機観測の映像を流し、航空機観測について話された。どの講演もわかりやすく、引き込まれる講演で、あっという間に閉会となった。講演会の様子を第1図に載せる。

アンケート結果からも今回の講演会に満足したことで、台風の航空機観測への期待が読み取れた。アンケート結果も教育と普及委員会ホームページに掲載しているので参照していただきたい。このように最新の研究を一般の方に直接伝える場とできたことを担当者として嬉しく思う。わかりやすい講演をしてくれた講師の先生方、企画の段階から携わってくれた関係者の方々に感謝する。